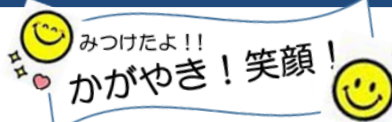


やぶつばき



令和5年9月14日

二学期開始早々に開催した校内夏休み作品展(9/5~7)では、ご家族の愛情に支えられた子どもたちの意欲溢れる作品が並びました。作品からは出来栄の素晴らしさだけでなく、仕上げるまでにそれぞれの子どもが苦労した様子も伝わってきて、心が温まりました。



子どもたちには、この夏休みの作品作りを通して身に付けた粘り強さや自信を、二学期の学校生活でも発揮して行って欲しいと思います。そして、身の回りの生活の中に「?」を見つけ、自分で調べたり考えたりして「わかっていく楽しさ」を、なかまと一緒に積み重ねていく二学期にしたいと思いました。

校内夏休み作品展には、たくさんの保護者の方に足を運んでいただき、とても嬉しく思いました。また、八郷西小学校コミュニティスクール運営協議会の委員の方やあかつき交通安全隊、民生委員の方も来校くださり、「一生懸命作ったのがわかります」「素敵ですね」等の言葉をいただきました。誠にありがとうございました。

全国学力・学習状況調査(6年生4月実施)から

国語科、算数科の二教科の学力調査と学習に対する姿勢や生活習慣等の調査が4月に実施され、7月に結果が公表されました。この結果を受けて、本校の課題を明らかにし、授業改善に取り組みでいきます。また、本校の強み、これまでの取り組みの成果が表れている部分については、今後も継続して取り組み、子どもたちの成長につなげていきたいと思ひます。

本校の学力調査の結果及び分析は以下の通りでした。

- 【全体】・平均正答率が県平均及び全国平均をやや下回ったが、多くの問題で無回答率が県平均及び全国平均より低く、問題に最後まで向き合い回答しようとする姿が見られた。
- 【国語】・原因と結果など情報と情報の関係について問う問題や日常的に使われている敬語の理解を問う問題で正答率が県平均及び全国平均を上回り、よく理解できている。
・目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する問題や目的に応じて必要な情報を見付ける問題で県平均及び全国平均を下回り、課題点である。
- 【算数】・数量の変化と関係「比例」の問題で、県平均及び全国平均を上回り、理解がよくできている。
・データの活用の問題の正答率が、県平均及び全国平均を下回り、「図表・グラフから必要な情報を読み取る」という点に課題がある。

なお、朝の学習時間に全校で取り組んでいる漢字の学習についても、「漢字の意味を理解して覚えること」に課題がみられました。また、県全体として、「複数の条件を満たし、文章で回答する問題」や「二つの三角形の面積の大小を、底辺と高さに着目して判断する問題」の正答率が低いことが課題としてあげられています。

○児童質問紙からみる本校の特徴

- ・「毎日朝食を食べている」や「就寝・起床時刻が決まっている」と回答した児童の割合が、県や全国に比べ高く、規則正しい生活をしている児童が多いことがわかる。
- ・「読書が好きか」の問いに約八割の児童が肯定的な回答をしており、県や全国に比べその割合が高い。一日当たりの読書時間も、県や全国に比べ長いことから、読書好きな児童が多いことがわかる。
- ・「家で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童の割合が県や全国に比べ高く、家庭学習が定着していることがわかる。ただし、「授業を除く平日の学習時間が1時間より少ない」児童が約半数であったので、さらに内容を充実していくとよい。
- ・「勉強が大切だ」と考えている児童の割合が高く、特に算数で高いことから、学習意欲につながっていくと考える。しかし、学習した内容について振り返り、次の学習に繋がられている児童の割合が、県や全国に比べ低いことから、受け身的な学習をしている児童が多いのではないかと考えられる。
- ・「学校に行くのは楽しい」や「友達関係に満足している」児童の割合が、県・全国に比べてやや低い。しかし、「学級で、学校生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めている」と回答した児童の割合が高く、なかまとともに問題解決をすることの意義を感じとっている。
- ・「地域や社会をよくするために何かをしたい」と回答した児童の割合が県・全国に比べ高く、自分の力を発揮させようという前向きな姿勢がある。

本校の家庭と連携した学習習慣づくりや家庭読書といった取り組みや校内の生活改善の取り組みの成果がみられ嬉しく思いました。また、八割の児童が「自分の良いところを認められている」と回答していましたが、その割合がもっと高まるよう楽しい授業づくり、なかま作りに力を入れていきたいと思いました。なお、ICTの使用頻度が県・全国に比べ低いことから、その効果的な活用が課題です。

今後の取り組み

- ・本校の強みである読書を通じて、文章を読みとる力の基礎となる語彙力を養う。漢字学習では、その漢字の持つ意味を理解させ、使い方がわかるように漢字を使った言葉集め等に取り組む。
- ・書くことに慣れ、書く力を付けていくために、自分の思いや考えを書く機会や時間を確保する。国語科では、要約や条件作文等を、系統だてて進めていく。
- ・複数の資料(図や表)から情報を読み取る活動を授業に取り入れ、自分の考えがうまく伝わるよう資料を使い、文章、話の組み立てなどを工夫して、発言や発表を行う指導をすすめる。
- ・ICTの活用の幅を広げ、自分の考えをまとめたり発表したりする体験を系統的に積み上げていく。また、ICTの活用により個に応じた指導の充実を図っていく。
- ・本校の目指す「聴き合い・伝え合い・考え合う」授業の実践により、なかまの話の聴き自分の考えが深まったり、広がったりする体験を重ね、なかまと繋がる良さや協働的な学びの楽しさを実感させていく。
- ・実生活に結び付けた授業づくりに心掛け、具体物进行操作する活動や量感、状況をイメージして問題を解決する活動を大切にしていく。
- ・家庭、地域との連携により生活リズム向上や家庭学習、家庭読書の取り組みを継続、推進させていく。

家庭・地域・学校が連携・協働して「今後の取り組み」を進めていきたいと思っておりますので、一層のご理解とご協力をお願いします。